

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 酢酸ビニル(ポリマー)溶液

製品番号(SDS NO): 31261jis_J-1

供給者情報詳細

供給者: 純正化学株式会社

住所: 埼玉県越谷市大間野町1-6

担当部署: 品質保証部

電話番号: 048-986-6161

FAX: 048-989-2787

e-mail address: shiyaku-t@junsei.co.jp

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(麻酔作用)

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

注意書き

安全対策

熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。—禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋及び保護面を着用すること。

応急措置

水はリスクを増大させる。火災に際しては指定された消火剤を使用する。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

酢酸ビニル(ポリマー)溶液 ,純正化学株式会社,31261jis_J-1,2014/12/22

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:

混合物

成分名:酢酸ビニル(ポリマー)

含有量(%):約50

化学式:(CH₃COOCH₂)_n

化審法番号:6-295

CAS No.:9003-20-7

成分名:酢酸エチル

含有量(%):上記成分の残量

化学式:C₄H₈O₂

化審法番号:2-726

CAS No.:141-78-6

MW:88.11

ECNO:205-500-4

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

不適切な消火剤

水は冷却の目的には用いてもよいが、消火の効果はない。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

耐熱手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

蒸気、ミスト、ガスを吸入しないこと。

安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。

保護手袋及び保護面を着用すること。

酢酸ビニル(ポリマー)溶液 ,純正化学株式会社,31261jis_J-1,2014/12/22

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度

(酢酸エチル)

作業環境評価基準(2004) ≤ 200 ppm

許容濃度

(酢酸エチル)

日本産衛学会(1995) 200ppm; 720mg/m³

ACGIH(1979) TWA: 400ppm (上気道および眼刺激)

OSHA-PEL

(酢酸エチル)

TWA 400ppm, 1400mg/m³

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

空気呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状 :粘稠液体

色 :無色

臭い :芳香臭

pHデータなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点データなし

融点/凝固点データなし

分解温度データなし

引火点 : (酢酸エチル)-4°C

自然発火温度 :427°C(酢酸エチル)

爆発特性 :引火又は爆発範囲

下限 :2.2 vol %(酢酸エチル)

上限 :11.5 vol %(酢酸エチル)

蒸気圧 :10 kPa (20°C) (酢酸エチル)

酢酸ビニル(ポリマー)溶液 ,純正化学株式会社,31261jis_J-1,2014/12/22

相対蒸気密度(空気=1) :3.0 (酢酸エチル)

比重/密度データなし

粘度 :6~12Pas

溶解度

水に対する溶解度 :微溶

n-オクタノール/水分配係数データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

引火性が高い。

避けるべき条件

混触危険物質との接触。

裸火、加熱

混触危険物質

酸化性物質

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

rat LD50=4940 mg/kg(PATTY 5th, 2001)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

ウサギに用量 18000 mg/kg24時間閉塞適用で死亡なし(DFGOT vol.12, 1999)。

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

vapor : rat LC50=13856 ppm/4hr (ACGIH, 2001)

労働基準法 : 疾病化学物質

酢酸エチル

局所効果

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

ラビット : Draize test MMAS=15.0 (ECETOC TR48, 1998)

感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

催奇形性データなし

発がん性

(酢酸ビニル(ポリマー))

IARC-Gr.3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分3(気道刺激性)]

酢酸ビニル(ポリマー)溶液 ,純正化学株式会社,31261jis_J-1,2014/12/22

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル) 気道刺激性 (ACGIH, 2001)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル) 麻酔作用 (ACGIH, 2001)

吸引性呼吸器有害性データなし

その他情報

この調合製品自体のデータは得られていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(酢酸エチル)

甲殻類(オオミジンコ) LC50 = 2,500mg/L/24hr (SIDS, 2008)

水溶解度

(酢酸エチル)

8 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005)

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

(酢酸エチル)

log Pow=0.73 (ICSC, 1997)

その他情報

この調合製品自体のデータは得られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 :1993

品名(国連輸送名) :その他の引火性液体、他に品名が明示されていないもの

国連分類(輸送における危険有害性クラス) :3

容器等級 :III

指針番号 :128

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Z類)・・・酢酸エチル

危険物・・・酢酸エチル

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

第2種有機溶剤等

酢酸エチル

名称表示危険/有害物(令18条)

酢酸エチル(区分内番号9の9)

酢酸ビニル(ポリマー)溶液 ,純正化学株式会社,31261jis_J-1,2014/12/22

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第15条関係)

危険物・引火性の物 (-30°C ≤ 引火点 < 0°C)

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)

酢酸エチル(区分内番号177)

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第1石油類非水溶性液体 危険等級 II

悪臭防止法

酢酸エチル

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

水質汚濁防止法

指定物質

酢酸エチル

法令番号 13

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2014 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

2013 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

化学物質総合情報提供システム(CHRIP) (NITE) <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

事業者向けGHS分類ガイダンス(平成25年度改訂版,経済産業省)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。